

令和元年度石川県医療計画推進委員会第1回地域医療構想部会 議事要旨

1 日 時：令和元年8月19日（月） 19：00～

2 場 所：石川県庁行政庁舎11階 1109会議室

3 出席者：委員及びオブザーバー18名（委員名簿は別紙のとおり）

4 議 題

- （1）今年度の地域医療構想調整会議の進め方について
- （2）外来医療計画について
- （3）個別医療機関の病床機能の見直しについて
- （4）地域医療構想の進捗状況について
- （5）その他

5 主な意見

【外来医療計画について】

- ・診療所の数について、診療科による分析は行っていないのか。一般内科などの幅広く患者を見る科と、例えば皮膚科等のような専門的な診療科で状況は違うのではないか。また、個人的な印象だと、年齢が高い診療所の先生は幅広い患者を診ている方が多く、若い診療所の先生は専門の診療科に特化した方が多いように思う。今後、幅広く患者を診ている先生方が退職され、専門の診療科に特化した先生だけになると、外来機能というのは今とはかなり違ってくるのではないか。
 - （事務局）診療科ごとの分析は行っていない。どこまでの分析ができるかはわからないが、今後、ご相談させていただきながら考えていきたい。
- ・能登北部の診療所数が全国に比べてそこまで少なくないとのデータが出ているが、これは病院が外来を一生懸命やっているから。しかし、働き方改革が叫ばれている現在において、病院が夕方まで外来を頑張ることで、診療所を受診する外来患者の割合が低くなることは地域の課題として取り上げるべき。
- ・死亡の場所について、自宅や老健施設等の死亡の割合が10年で14.2%から22.1%に増えているとのことだが、全国と比べるとどういう状況なのか、また今後この数字をどうしていきたいと考えているのか。
 - （事務局）自宅の割合は全国に比べてやや少なく、老健施設・老人ホームの割合は全国に比べてやや高い状況となっており、合わせると石川県は全国並みとなっている。また、医療計画を策定する際、在宅医療に関してもいろいろなご意見をいただいたが、死亡の場所についての目標は定めていない。
- ・診療所医師数を見ると、男性はこの10年で減少している一方、女性は増加している。

科別の増減も知りたい。今までも女性医師支援を行ってきたが、女性医師は現在不足している小児科を選択していただける方も多く、今後も女性が開業しやすい環境づくりを進めていくことが重要である。

- ・病院も外来機能を担っているが、外来医療計画において、病院の外来はどのように位置づけられているのか。これはあくまでも診療所の外来のみを対象としているということか。病院は外来と入院どちらも担っており、病院の外来も含めて地域の外来医療体制を議論していくべき。

→（事務局）今回策定する外来医療計画は、診療所の偏在対策を目的としており、外来医師偏在指標等の外来医療の偏在状況等を新規開業者に示し、外来医師が少ない地域での開業を促すほか、外来医師多数区域で新たに開業する方には不足する外来医療機能の協力をお願いすることを、まずしっかりやっていくこととなっている。また、外来医師偏在指標も診療所の医師のみを対象としているところである。

ただ、実際のところ、地域によっては専門性の高い科や診療所でカバーできない部分については病院に補完いただいているところであり、地域に必要な外来医療体制を整備するためには、病院も含めて考えていく必要がある。

【地域医療構想の進捗状況について】

- ・慢性期病床から介護医療院への転換について、介護療養病床から転換する分には同じ介護保険なので問題ないが、医療療養病床からの転換は医療保険から介護保険に変更となる。ある地域では介護保険の負担が増えるので、転換にストップをかけるところがあると聞いていて、石川県ではどうなっているのか。

→（事務局）医療療養病床から介護医療院への転換は、基本的には市町の介護保険事業計画に位置づけがなくても認めるということになっており、本県においても希望があれば認めている。

【その他】

- ・いしかわ在宅医療・介護連携ルールについて、2018年診療報酬改定で新たにできた入院時支援加算の情報が抜けていると思われる。

→（事務局）確認して必要があれば修正する。

- ・今回の資料にはなかったが、病院の医師も高齢化している。また、今後働き方改革も始まっていく中、夜間の救急体制をどう確保していくのが課題であり、地域の協議会でもそのような意見が出るのではないかと。